

市政ニュース

豊岡市副市長に真野毅さんが就任

市では、副市長を2人制にすることとし、既に中川茂副市長が在任していますが、あと1人の副市長に真野毅さん(東京都調布市から)が9月15日付けで就任しました。

元京セラ(株)部長の真野副市長は、「まちの活性化を図る仕事をし、社会にも貢献したい」と思っていました。心で豊かな社会を目指すまちづくりに共感しています。私が民間企業で培ってきたビジネス感覚を生かし、皆さんがここにいたいと思う、ここに住みたいと思いきたいです」と抱負を語りました。

今回の副市長の選考に当た



▲豊岡市副市長 真野 毅さん

毅さんが就任

つては、「民間での職務経験を生かし、深い見識、豊かな発想力と熱意をもって、市の目指すまちづくりに取り組んでいただける方」などの応募要件を提示し、候補者を全国から公募しました。

広く周知するため、報道機関への情報提供や市ホームページなどでの中貝市長の動画メッセージによりお知らせするほか、説明会を東京と神戸で開催しました。

説明会には、予想をはるかに上回る約800人の来場者があり、中貝市長が「求める副市長像」や「市のまちづくり」について話しました。

この結果、米国や全都道府県から1、371人も応募がありました。

論文や民間での実績などの書類による第1次選考、面接による第2次選考を経て、候補者を決定し、市議会の同意を得ました。

香港フード・エキスポ2009

「コウノトリ育むお米」は海外でも大好評!

8月13日から15日までの3日間、香港コンベンション・エキシビションセンターで「香港フード・エキスポ2009」(主催:香港貿易発展局)が開催され、本市のブースにJAたじまが出展しました。これは、アジアを主に北米、ヨーロッパなどの各国が集まる有名な美食博覧会で、今年で20回目を迎えました。

博覧会のトレードホールには世界各国のバイヤー(買い手)が集まり、食材・食品に関する商談が行われました。本市は、「コウノトリ育むお米」や清酒「幸の鳥」などの農産物や加工品のPRを行いました。バイヤーの中には、コウノトリ育む農法について関心を抱く方やおいしいお米に納得する方もあり、農産物の海外販路拡大につながることを期待できます。



▲安心で安全、高品質な農産物は人気です

森の中の温泉リゾート・かなべ湯の森「ゆとろぎ」

入館者200万人達成!

平成6年にオープンしたかなべ湯の森「ゆとろぎ」(日高町栗栖野)の入館者が、8月30日、200万人を突破しました。

200万人目となったのは、姫路市在住の壺井則子さんで、中貝市長からコウノトリ育むお米10キログラムを贈呈され、(株)日高振興公社の下坂社長からは、ゆとろぎの1年間無料券と神鍋高原特産品詰め合わせセットが贈られました。

壺井さんは、「温泉が好き



▲贈呈者の中貝市長と記念撮影する壺井則子さん

主な市政の動き

- 8月
 - 10日・市本庁に(台風9号)災害警戒本部を設置し、その後災害対策本部に変更
 - 15日・佐用町や宍粟市に市職員を派遣(28日)
 - 17日・豊岡市国際交流体験学習使節団(児童20人ほか)を韓国慶州市に派遣
 - 21日・台風9号災害義援金募集開始(11月30日)
 - 22日・第3回ジオパーク国際シンポジウムに参加
 - 28日・第6回定例市議会開会(9月28日)
 - 30日・第30回記念兵庫神鍋高原マラソン全国大会開催
- 9月
 - 2日・市内在住最高齢者(108歳)祝福訪問
 - 6日・城崎温泉駅開業100周年記念式典
 - 28日・第30回記念兵庫神鍋高原マラソン全国大会開催
 - 29日・ゆとろぎ入館者200万人達成セレモニー
 - 世界陸上競技選手権大会男子マラソン出場選手清水将也さん(本市出身)来訪

「第3回ジオパーク国際シンポジウム」

山陰海岸ジオパークをアジアにアピールしました

ジオパーク国際シンポジウムが、8月23日から25日まで、中国山東省泰安市で開催され、世界ジオパークネットワーク委員やアジア各国のジオパーク関係者が集まりました。山陰海岸ジオパーク推進協議会からは、会長の中貝市長と協議会の専門委員らが参加しました。

シンポジウムでは、豊岡市の三木武行ジオパーク普及啓発専門員が山陰海岸ジオパークの特徴と取組みを発表し、

高い評価を得ました。

参加者は、世界ジオパークに認定されている泰山ジオパークを視察しました。現地では、そのスケールの大きさに驚きましたが、一方で山陰海岸ジオパークの特色を再認識する機会にもなりました。

山陰海岸ジオパークには、中国にはない地質や生物の多様性があり、そこから生まれた風土、文化があります。これらの魅力を、世界ジオパークネットワーク委員に強くア

ピールしました。



▲三木専門員の発表は、自然・文化・災害なども入った幅広い内容

モデル事業で7校園庭を芝生化 芝生化開放セレモニーやオープニングセレモニーが開催されました

市では、子どもの外遊びが増えることによる心身の発育向上、環境の改善効果などを期待し、今年度から7校園で校園庭芝生化モデル事業に取り組んでいます。

各校園では、4月下旬から芝のポット苗作りを始め、6月下旬から7月上旬にかけて校園庭に移植しました。春から育ててきた芝は、ようやく校園庭一面に広がってきました。地域へのお披露目は、各校

園の運動会などになります。それに先駆け、8月30日に港東小学校で芝生化開放セレモニーが行われ、子どもたちが関係者に感謝の言葉や校園庭の使用開始宣言を行いました。

また、31日、豊岡小学校では、オープニングセレモニーが開催されました。同校卒業生で、現在ヴィッツェル神戸のキーパーである紀氏隆秀さんが出席し、サッカー教室、ゲームや交流試合が行われ、校園庭の芝生化を祝いました。



▲サッカー教室では、児童がプロ選手の紀氏さんに挑戦

中貝市長の徒然日記 ⑳

消防士の誓い

前兵庫県知事の貝原俊民さんが、最近「兵庫県知事の阪神・淡路大震災」という本を出されました。その中の一文に目が留まりました。

神戸市消防局の「震災消防計画」の中に、「初動時は全組で、「あなたは どうする？」と織力をあげて消火活動に着手する」と書かれているそうです。火災対応最優先ということは、救急、救助は凍結する、まず火を消す。この決定を、貝原さんは、震災を教訓にした消防士たちの「誓い」なのだと述べておられます。

すさまじい「誓い」です。地震で倒れた家の下敷きになって助けを求める人がいたとしても、別の場所から火が出ている場合は、消火を優先する、と言っているのです。消防士は、たとえ生き埋めになっても、市民の家族から足をつかまれようと、「人殺し」とのしられようと、振り切つて火を消しに行くのだと。それが、限られた人材、資器材、時間の中で、よりたくさん

命を救う道なのだ。あのとき、消防士たちは現実にその選択を突きつけられたのです。立ち去った消防士、立ち去れなかった消防士、どちらも、心に深い傷を負ったはずです。

市の消防士の面接で、私は同じような状況設定をした上で、「あなたは どうする？」と質問してきました。ほとんど受験者が、「その人を助けます」と答えました。

人として、当然の答えです。しかし、消防士として本場にそれではいいのか。その答えを現場で個々に判断させてはならない。「誓い」は、活動の優先順位を明らかにしているだけでなく、決断の重圧を個人ではなく組織全体で受け止める、という決意でもあります。

しかし、それでも、消火最優先を命じるトップは、恐ろしいほどの重圧に耐えなければなりません。他人任せではありませぬ。

